



横浜陶芸友の会だより

第 195 号

令和 7 年

11 月 28 日発行

「11 月役員会を終えて」

横浜陶芸友の会会長 鍋島 弘義

いつまでも猛暑が続いていると思っていたら一気に冬が来てしまいました。

体調を崩された方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

このところの異常気象にはまいってしまいます。健康には気を付けて過ごしましょう。



令和 7 年 11 月 15 日(土) 杉田地区センターにおいて「役員会」が行われました。

事業部から「作品展の御案内」の確認で、出展料や受付時間は今まで通りの内容との報告がありました。詳細については同封の「作品展ご案内」をお読みください。

専修部からは、「焼成会」の報告と会計報告があり、監査も行われました。

更に、来年度の「焼成会」は中止にして、以前行われていた様な、作品持ち寄りによるイベントを企画したいとの話も出ました。

その理由としては、「焼成会」の出発点は本牧の陶芸教室を卒業し窯を持つていない方の

為に焼成してもらおう。と、いう事に目的がありました。しかし、今では会員の方のほとんどは自分の窯を持ち釉薬や焼成方法など自分で自由に研究するようになっていきます。会員数も減り技文の窯では大き過ぎて井上様の窯で焼成するようになりましたが「焼成会」としての役目は終わったと思われます。

来年度の「総会」において専修部の活動計画が報告されます。どのようなイベントが出てくるのか楽しみにしたいと思います。

関東学院大学の「関キャンfes.」は連絡が来ましたが、会員に呼びかけた所、参加者も少なく御断りの連絡をいたしました。

今年の様子を見に行けなかったのですが、盛り上がりつつあったのでしょうか？

専修部でご活躍されていた逢阪様が 10 月に亡くなられました。ガラス絵や陶画、人形

など、色々な作品を楽しませていただきました。ついこの間の焼成会の帰りに、一緒に昼食を食べたの思い出されます。

様々な感謝の思いと共に謹んでご冥福をお祈りいたします。

「役員会」報告

11 月 15 日(土) 15 時より、杉田地区センターにおいて、会長、副会長、各役員 6 名の出席で話し合いました。

《議題》

「総務部」より

○「関東学院大学」の「関キャンfes.」への参加は参加できる会員が少なく学校へは御断りの連絡をいたしました。

○次回の役員会では「作品展」の報告と、会計監査を行います。

また、「総会」の議題確認と開催日についても話し合います。

「総会」は、今年同様、役員会と同日開催の予定です。

○会計より

・焼成会の会計監査を役員会終了後に行い、特に問題もなく終了いたしました。

・次回(2 月)の役員会で今年度の各部の会計報告と監査を行います。

各部会計の方はご準備をお願いいたします。

○広報より

・11 月号の「陶陶さん」は、作者のパソコンが故障したため編集ができず残念ながらお休みのいたします。

・会報と一緒に「作品展」のご案内とハガキをスマートレターで同封いたします。

・次回は令和 8 年 2 月下旬に発行する予定

「事業部」より

「第46回作品展」について

〈会期〉令和8年1月13日(火)～18日(日)

〈会場〉かなつくホール3階ギャラリーA

〈開場時間〉10時～17時

※ただし、初日は13時より

最終日は16時まで

〈出展料〉一区画(幅 45cm) 2000円

〈申し込み締め切り〉令和8年1月6日(必着)

〈特設「ナー課題」「飯茶碗」

※過去に作った思い出の作品でも構いません。

もちろん新作も大歓迎です。

〈懇親会〉令和8年1月15日(木)「木曾」にて

(会費) 五千円位(当日支払い)

〈作品受付〉11時から 直接会場に持参

〈搬出〉16時から 作品が片付いてから行う

〈会場当番〉申し込み時にお知らせください

(午前) 10時～14時(午後) 13時～17時

その他

○会場設営は9時半より役員で行います

○詳細は同封の「作品展」案内を

お読みください

【今回の「役員会」予定】

令和8年2月14日(土) 15時から

(場所) 杉田地区センターです

※参加よろしくお願いいたします

「専修部」より

「2025年度 秋期焼成会」報告」

今年度の焼成会も左記日程にて無事に終えることが出来ました。

○9月28日(日) AM 10時 受付・釉掛け

○10月1日(水) AM 10時 素焼き

○10月5日(日) AM 10時 釉掛け

○10月14日(火) 16時から 本焼き

○10月19日(日) AM 10時 引渡し

(参加人数)

(作品数)

(作品重量)

令和7年度

7.35 24 6
kg 点 名

令和6年度

12.76 39 9
kg 点 名



本焼き窯詰め

釉掛け風景



「専修部のこれから」

現在専修部で保管されている釉薬原料を希望者に、無料で配布しようと思います。

専修部在庫釉薬原料

品 名	重 量 (g)
蛙目粘土	950
朝鮮カオリン	1000
中国黄土	900
福島珪石	4300
焼タルク	1000
ベントナイト	750
福島長石	600
松灰	400
合成柞灰	3000
3号石灰釉	1000
亜鉛華	1000
酸化亜鉛	1900
炭酸マグネシウム	1030
塩化マグネシウム	400
酸化コバルト	120
沈殿防止剤	1100

希望者は専修部長井上(090-7804-9741)までご連絡ください。(締め切り年末まで)

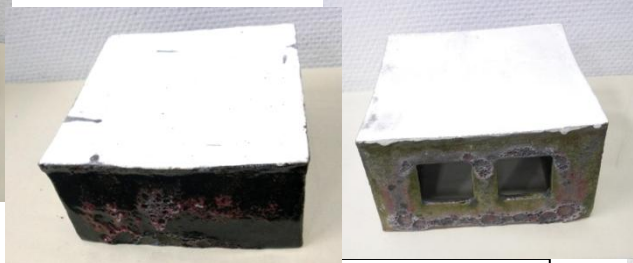
年度ごとの参加人数、作品数の減少に伴い今後の「焼成会」の在り方を、参加者で話し合いました。しばらく中断し、来年度からは「ぐい呑み会」復活で思い出の一品を持ち寄り陶芸談義をしながら、モチベーションを高めて行きたいと思っています。
具体的には役員会等にて協議し報告いたします。



「花器」
織部に上絵の具

テーマ 「あばたもえくぼ」

釉薬にシリコンカーバイド混入の釉薬を重ね塗りあばたのようなマチュエール（肌合い）を表現した、醜いようで見様によっては美しさも感じます。



皿：鉄赤 黒マット 黒天目



「花器」
黒天目 コバルト系釉薬

＜今年のねらい＞

テーマの「あばたもえくぼ」は、一般に汚いと思う中にも見様によっては美しさが隠れている。と、いう発想から考えついた。

こういう朽ち果てたようなマチュエール（肌合い・質感）を出してみた。

違う釉薬を重ね合わせて厚みを出すように何度も焼いている。

最後に釉薬にシリコンカーバイド混入の釉薬を重ね塗り本焼きの後で泡立った表面をグラインダーで削り溶岩のようなあばたを残している。

湯呑：コバルト系釉薬



茶碗：赤織部 織部



茶碗の赤織部、織部と書いてあるものは、最初に赤く発色する織部を塗りその上に普通の織部を掛け最後に筆で振りかけるようにシリコンカーバイド混入の釉薬を重ね塗りしています。

厚すぎると剥がれて下地だけになるのがあります。

厚く掛けているので削り方によっても色が違って出てくる面白さがあります。

アルミナ溶液を釉薬の上に塗って本焼きをします。「釉薬の剥離の具合が面白いかな。」と、思ってやってみました。白い部分はアルミナが残っている所です。

どこが剥離するか焼いてみなければわからないのですが。

器の中の釉薬は黒マットですが、本焼きを何回かすると艶が出てきます。



「双口花器」:信楽 トルコ紺青 電気窯

「靴形花器」:水簸 赤土泥奨・透明釉 電気窯



「双口花器」

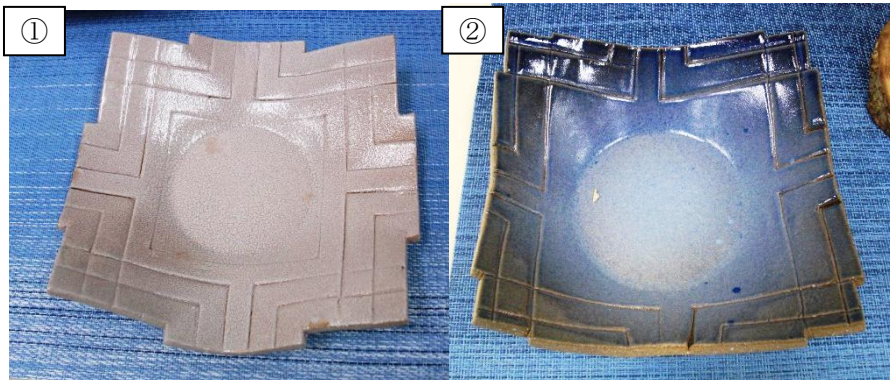
信楽 酸化鉄 電気窯



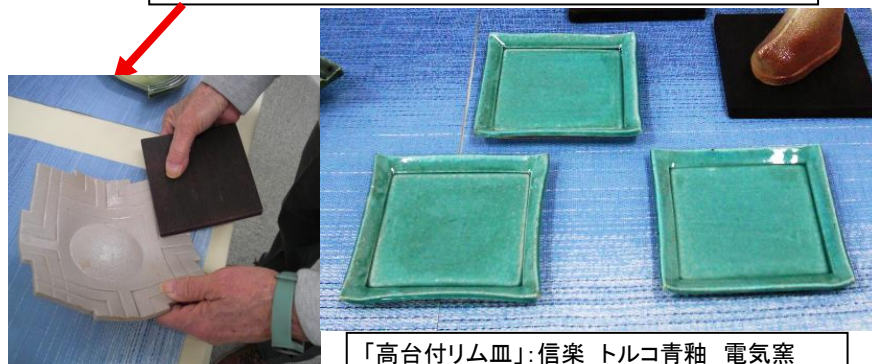
「作品全体展示」
今年は「たたら作り」だけで
作品を作りました。

この「双口花器」も粘土で5mm厚の板を作り伸ばし棒に巻き付けて作っています。ある程度乾いてから丸棒を抜き真ん中で潰し折り曲げています。最後に花びらの形に口を整えています。

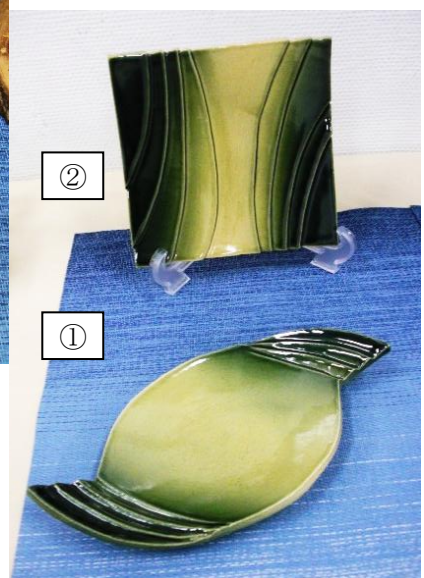
「靴形花器」も厚みのある塩ビ板に粘土の板を巻き付け、靴形の型紙に合わせ切り落とし、貼り付け形を整えています。



「直角文様皿①②」:①水簸 糠白釉 ②赤土 糠白釉+ルリ釉
ラインは木片の角で押し込み装飾 電気窯



「高台付リム皿」:信楽 トルコ青釉 電気窯



①「流紋皿」 ②「流紋角皿」
①五斗蒔 ②信楽
どちらもエアガンで灰釉と織部釉
を重ね掛け 電気窯

「流紋角皿」は四角い板を作り適当に筋を描きその筋に沿ってカンナで段差を付けて削っています。グラデーションを出すために素焼きしてからエアガンで全体に灰釉を掛けその上から織部釉を縁から掛けています。本当は真ん中はもう少し白い部分を多くしたかったが織部釉がかかり過ぎてしまった。筋を入れるのもカンナもためらわず一回で削る方が良い。何回もやると凸凹になってしまいます。最後に平らな板で、す〜っと撫でてあげるくらいのが一番いい。

「高台付リム皿」の高台も板を作り、中をくり抜き底に貼って高台にしている。

「直角文様皿」も同じく四角い粘土板を作り木片の角で押し込みラインを出しています。釉薬もエアガン吹きで②は糠白釉を全体に掛けてからルリ釉を吹いています。

「窯変金彩」

窯のごきげんで発色し、焼成温度や湿度などの微妙な変化で発色が変わり同じ物は二度と出来ない一品ものです。

窯変（ようへん）とは窯の内部で作品に生じた色の変化のことです。窯の炎による現象であることから、「火変わり」とも呼ばれます。その色の重なりは時に模様を形成し、陶磁器の色彩をより深く、味わいのあるものにしています。

ちなみに、窯変は **accidental coloring**（偶然生じた色彩）と英訳される事もあります。

陶磁器を焼く時に作品を窯に入れるわけですが、高温で焼成すると窯内部の科学物質が反応し合い磁器に様々な色相が生まれます。

作り手はどんな焼き上がりになるか、ある程度の予測は出来たとしても最終的にどんな色相になるかは実際に窯から出してみないと分かりません。

薪窯で焼成する場合、燃料である薪は燃えて灰になります。灰は窯の炎で舞い上がり、そして作品の表面に振りかかります。その灰が高温で溶けるとガラス質に変わり釉薬と同じ役割を果たします。その結果、作品の表面に色の変化をもたらします。

そうした意味で「偶然」というのは的を射た表現だと思います。特に薪を燃料とする薪窯ではこの傾向が強く、ゆらめく炎は多様な色彩を陶磁器にもたらしました。

窯変は一言でいえば色の変化ですから、釉薬を用いない無釉焼き締めめの作品にも窯変は生じます。例えば土をそのまま焼く備前焼や信楽、伊賀の焼き締めなどがその一例です。

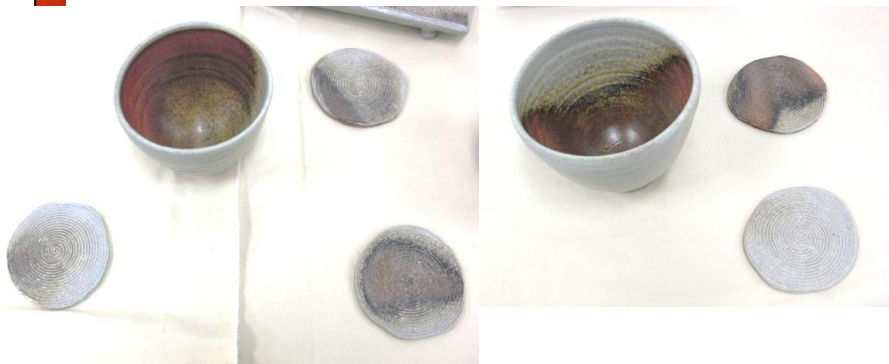
「第45回作品展」
高橋光男



「俎板皿」古信楽細プラス備前土
（沼津穴窯焼成）自然釉
俎板皿の裏に窯変金彩発色（窯変）



「取り皿(7枚)」スパイラル模様
古信楽細（沼津穴窯焼成）自然釉



「深小どんぶり(3個)」
古信楽細（沼津穴窯焼成）自然釉



「向付 竹割皿(3個)」
古信楽細（沼津穴窯焼成）自然釉



作品全体

「ワインクーラー」(水指にも) : 信楽大原粘土
笠間の陶芸家、中野章男氏の穴窯にて焼成
狙い通りの炎色が出た作品で大満足。自然釉

「ホタテ皿」: 半磁器土 型起し 穴窯焼成 自然釉

「箸置き」: 信楽並漉粘土 型起し チタン・マット釉 電気窯

「第45回作品展」
本橋昭彦



「鶴首一輪差」: 備前粘土、自然釉
沼津の足高芸術村の穴窯にて焼成。
4泊5日で100時間近く窯を焚きました。



「木の葉天目皿」
木の葉の模様が良く出ました。

「瓢箪型花入」: 信楽並漉粘土 ロクロ成型
A1油滴天目釉 電気窯焼成

「湯呑」: 志野白土 福島長石 ロクロ成型 穴
窯焼成 自然釉

「ピアマグ」: 友の会の会友だった山中さんより貰
った粘土で何と言う粘土かは分からないが、かな
り砂っぽい感じで本焼きをしても溶けず
珪石分の多い粘土か?

しかし、ビールの泡立は最高。電気窯焼成。

「鮑皿」: 半磁器土 型起し 穴窯焼成 自然釉



今月号の「陶陶さん」は
作者のパソコンが故障し編集ができな
くなったため、残念ながらお休みいたします。

ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonokai/>

横浜陶芸友の会だより
第 195 号

(令和 7 年 11 月 30 日発行)

【編集後記】

・今回の「陶陶さん」はパソコンの故障
でお休みになりました。

新しく購入するそうですが、慣れる
まで大変だろうと思います。

次々と新しく良いものが出てきて
いるのですが、私にはこの世の中
のスピードにはついていけなくて
もうお手上げです。

赤星様、ありがとうございます。

・今年もはや12月になりました。

来年の1月は「作品展」が待ってい
ます。私は、なかなか作品が作れなく
て悩んでいます。しかし、皆様とお会
いできるのは楽しみにしています。
懇親会も楽しみにしています。

鍋島弘義